

◆NewTek：シリーズ初 4K60p 対応 SDI/IP ビデオ制作システム「TriCaster TC1」を発表

NewTek 社は 10 年以上にわたるライブビデオ配信の経験から得た技術集大成のもと、「TriCaster TC1」を発表した。同システムは 4K UHD スwitching、ライブストリーミング、レコーディング、データドリブン・グラフィックス、パッチャルセット、ソーシャルメディアパブリッシングなど、ビデオ制作フローに必要な機能をすべて網羅したオールインワン・システム。標準モデル（2RU ユニット、単一電源）、および冗長電源を備えた 3RU ユニットの 2 モデルがある。



システム全体の機能に影響することなく、最大 4K UHD 60p を含む 16 外部入力に対応できる。IP ベースワークフローを構成する同社の NDI テクノロジーにより、複数の放送スタジオ向けビデオ通話サービス「Skype TX」チャンネルを、遠隔スタジオとメインスタジオとつなげるように、生番組に組み込むことが可能。同システムは NAB SHOW 2017 にて一般初公開された。

同システムは同社が提唱するソフトウェア主導による IP ネットワーク対応環境により、ベースバンドビデオとの変換の必要なく、かつリソースの数を制限することなく、ビデオ編集からストリーミングまで含むすべての統合された機能を 4K 対応にすることができる。また、ビデオ解像度に依存なく、16 入力を利用できる。さらに NewTek のトップラインの IP シリーズも操作性や機能面を損なうことなく、4K UHD の 44 外部入力に対応する。

オンラインおよびモバイルビデオの急激な増加に伴い、制作側ではビデオをライブストリーミングし、素早く簡単にソーシャルメディアに配信する手段が求められている。同システムはニュース速報をライブ配信し、オンデマンドで視聴できるビデオクリップを投稿する処理もすべて同時に行える。Facebook Live、YouTube Live、Microsoft Azure、Periscope、Twitch といったソーシャルメディアへ直接、ライブ配信できるインターフェイスを持ち、またオンデマンド用のビデオクリップも同じく、「TriCaster TC1」インターフェイスから直接、ソーシャルメディアサイトへ配信できる。

本体オンボード SDI 入出力に加え、NewTek Connect ラインと組み合わせることで、必要に応じて物理的な SDI 接続を設定することができる。NewTek Connect ラインは、SDI から IP ビデオ変換および I/O チャンネル拡張、4K UHD 接続、IP 相互運用性、ビデオ録画、モニタリング、スコープなど多彩な機能を備えており、4 系統の SDI 入力を持つ「NC1 IN」モジュール、および 8 系統の SDI 入出力を持つ「NC1 I/O」モジュールが揃っている。NC1 I/O は、クワッドリンク 3G-SDI 接続することで、2 チャンネルの 4K UHD ビデオ出力ができる。

【問い合わせ先】

株式会社ディストーム TriCaster 事業部

TEL:03-5211-3208

株式会社アスク

TEL:03-5215-5650

◆CP+：フォトアワード「The Editors'Photo Award ZOOMS JAPAN 2018」の応募受付を開始

CP+ 実行委員会は 4 月 3 日、主催するフォトアワード「The Editors'Photo Award ZOOMS JAPAN 2018」の応募受付を開始した。

「The Editors'Photo Award ZOOMS JAPAN 2018」は今後プロとして、国内のみならず、海外でも活躍が期待できる新進写真家の育成・支援活動の一環として、写真・カメラ専門誌の編集長を審査員に迎え、CP+ が創設したフォトアワード。同アワードはフランスの友好イベントである「Salon de la Photo」によるフォトアワード「Les Zooms」、そして日本を代表する専門誌との企画連携をしながら、新しい才能のための発表の場を提供する。

6 月 30 日（金）まで応募を受け付け、その後一般投票を実施し「パブリック賞」を、またプレゼンテーションによる最終審査を行い「エディター賞」を選出する。

【問い合わせ先】

CP+ 事務局

<http://www.cpplus.jp/zoomsjapan/>

◆イーディテクノ：H.265 対応 4K UHD@60p メディアプレイヤーのエントリーモデル「AS4L00X」発売

イーディテクノは H.265 の 4K UHD@60p コンテンツの再生に対応したメディアプレイヤー「AS4K2K シリーズ」からエントリーモデル「AS4L00X」を 4 月 10 日に発売した。



「AS4L00X」は High Efficiency Video Codec (HEVC) でエンコードされた 4K Ultra High Definition (UHD) 動画をスムーズにデコーディングする ARM v.7 デュアルコア 1.7GHz SoC を搭載。4K デジタルサイネージに最適なメディアプレイヤーである。「AS4L00X」は、HDMI 2.0 端子を搭載し 4K 液晶モニターやプロジェクターなどへの接続が可能。本体の電源を点けることで本体に挿入した SDXC カードから動画コンテンツを自動再生、リピート再生する。

また、準備する放映コンテンツの映像クオリティに関わらず接続した液晶モニターやプロジェクターに合わせ出力する映像解像度をアップ/ダウンスケールするスケール機能を搭載。フル HD コンテンツしか用意できなくとも出力映像クオリティを最大 4K UHD@60 Y.Pb.Pr 10bit 4:2:0 に変換し 4K 液晶モニターへ表示が可能になる。4K 静止画スライドショー機能も搭載されており、メニュー画面で設定した任意の秒数毎に 4K (3820x2160) 静止画をスライドショー表示できる。動画と静止画の混在再生も可能。

その他、任意の時刻に「AS4L00X」を電源 ON/OFF する「電源 ON/OFF タイマー機能」、コンテンツが収録された USB メモリキー

を「AS4LOOX」に挿し込むだけで再生コンテンツの更新が可能な「USB3.0 高速自動コピー機能」、HDMI2.0 出力端子からの出力解像度・周波数を任意に設定することで対応解像度・周波数違いによるモニター非表示を防ぐ「アップ/ダウンスケーリング機能」がデジタルサイネージの導入現場をサポートする。

また、「RS232C」による外部制御に対応し、手持ちの PC から「AS4LOOX」へコマンドを送信して放映コンテンツの効果的な切替が行える。

なお、別途オプション品のプレイボタンボックス「BX08R」との接続利用に対応している。「BX08R」は、オプションの LED プレイボタンを最大 8 個接続でき、「AS4LOOX」から再生されるコンテンツを視聴者自らが選択可能となる。最大 3 台まで「BX08R」のデジチェーン接続に対応し、放映コンテンツ数に合わせて最大 24 個までの LED プレイボタンの同時利用でインタラクティブなデジタルサイネージが行える。

【問い合わせ先】

株式会社 エーディテクノ
TEL:03-5213-3855 FAX:03-5213-5323

◆エコ・トラスト・ジャパン: LIBRATONE ブランドの Bluetooth対応ヘッドホン、アップル製品専用イヤホンを国内販売開始

エコ・トラスト・ジャパン(株)はデンマークで評価の高いLIBRATONE(リブラトーン)ブランドのBluetooth対応の「Qadapt WIRELESS ON-EAR ヘッドホン」、ライトニングコネクタ対応の「Qadapt LIGHTNING IN-EARイヤホン」の二種類を4月21日から国内販売した。



「Qadapt WIRELESS ON-EAR ヘッドホン」

いずれも周囲の音を聞くことができる LIBRATONE の独自技術”City Mix”と、外部雑音を低減するノイズキャンセル機能を装備している。無料の専用アプリで好みの音質を選ぶことも可能。「Qadapt WIRELESS ON-EAR ヘッドホン」はバッテリー内蔵、「Qadapt LIGHTNING IN-EAR イヤホン」は 4 ボタンリモコンで選曲や音量調整などができる機能を持つ。



「Qadapt LIGHTNING IN-EAR イヤホン」

【問い合わせ先】

エコ・トラスト・ジャパン株式会社
<http://www.trustlight.jp/>

◆ジャパンマテリアル：スマートなデジタルサイネージを実現する OPS 準拠サイネージプレーヤー「Brightsign HD-OPS シリーズ」発売

ジャパンマテリアル(株)は OPS 規格に準拠したディスプレイ内蔵型サイネージプレーヤー「Brightsign HD-OPS シリーズ」を 3 月 24 日に発売した。ディスプレイ



背面のスロットに装着できるため、プレーヤーの設置場所を気にせずにサイネージを構築できる。HDMI ケーブルでディスプレイと接続する必要がなく、電源も内部のスロットより供給できるため電源ケーブルも不要。BrightSign 専用「WiFi Beacon モジュール」にも対応しているため、プレーヤー内部に搭載して WiFi 経由でコンテンツを更新できる。

また、「BrightSignNetwork.jp」というクラウド型ネットワークソリューションを利用して、複数のプレーヤーを遠隔地から安価で簡単に管理することも可能。

また、一般財団法人日本ドットコムに「BrightSign シリーズ」9 台が採用された。各プレーヤーを同期再生させ、天井に設置された 6 面連動のモニターとテーブルに埋め込まれた 3 面連動のディスプレイでオリジナルの様々なコンテンツをダイナミックに演出している。

【問い合わせ先】

ジャパンマテリアル株式会社
グラフィックスソリューション部
TEL: 03-5323-0820 FAX: 03-5323-0821

◆シンタックスジャパン：「Ferrofish A32 Dante」「RME Digiface USB」国内リリース開始

(株)シンタックスジャパンは新製品「Ferrofish A32 Dante」「RME Digiface USB」の国内販売を 3 月 28 日から開始した。

● 「Ferrofish A32 Dante」



「Ferrofish A32 Dante」

MADI 入出力、4 系統の ADAT 入出力、32 チャンネルずつのアナログ入出力に加え、64 チャンネルずつの Dante デジタル入出力を持つ多機能な AD/DA コンバーター。昨年リリースされた、ドイツのオーディオ機器メーカー Ferrofish 社の MADI 対応 32ch AD/DA コンバーター、「A32」が、新たに Dante を搭載したものの。

すべての入出力、計 384 チャンネルを直感的にコントロールすることができる 4 面の TFT 液晶画面を備えており、全チャンネルのレベ

ルを一見で監視することができる。また、Sharc DSP 搭載のデジタル回路は浮動小数点演算と 80 ビット幅のアキュムレーターにより 1 ビットのロスも生じさせないため、非常に正確なデジタル信号処理が可能。さらに、アナログ・アンプ回路には音響性能に優れた高品位なコンバーター・チップが搭載されているので音質を損なうことのない正確なコンバートができる。

また、プロフェッショナルなライブの現場では必須の機能となる電源の冗長化も標準装備。本体には 2 系統のネジ込みロック式の電源入力端子があり、万が一、片方の電源が故障した場合でももう一方の電源で音飛びなく稼働し続ける。MADI も冗長化されており、オプティカルとコアキシャルの両方の MADI 接続を併用することで、同期が失われた場合にはもう一方の入力ソースへ自動的に切り替わる。

ヘッドフォン・モニタリングも現場運用に即した仕様になっており、それぞれ入力と出力を 1 チャンネル毎またはステレオペア毎でモニタリングすることができる。この機能により、現場での回線チェックをより直感的に快適に行うことができる。さらに、プリセットを登録することにより、聞きたいチャンネルを選びミックスした状態を保存して呼び出すことができるので、様々な現場に柔軟に対応することが可能。

1U のボディーに様々な入出力を搭載している「Ferrofish A32 Dante」は、PC と接続するだけですぐに録音を始めることができ、またすでに運用されているシステムの拡張や、十分なスペースを確保できない現場など、必要な入出力をあらゆる場所で自由に増設することができる。

● 「RME Digiface USB」

ドイツのオーディオ機器メーカー RME 社の「Digiface USB」は、携帯にも適した 220g のボディーで、Windows/Mac コンピューターにオーディオ・データを SPDIF および ADAT フォーマットで伝送するオーディオ・インターフェイス。4 つのオプティカル入出力 (ADAT/SPDIF) と 6.3 mm TRS ジャックによるアナログの高品位ライン/ヘッドフォン出力を備え、コンパクト設計ながら最大 32 チャンネル入力と 34 チャンネル出力 (ヘッドフォン出力を含む) を USB2.0 ケーブル 1 本でコンピューターと接続することができるモバイル用デバイスである。電源もバスパワーに対応するため、外部電源を必要とせず、外録現場へ持ち込む機材を最小限に抑えることができる。

すべての RME インターフェイスと同様に、「Digiface USB」も強力なデジタル・リアルタイム・ミキサーである TotalMix FX を備え、全入力・再生チャンネルをハードウェア出力へ自由にミキシング/ルーティングすることが可能。また、ADAT オプティカルに対応するマイク・プリアンプと接続したり、ライブ会場のミキサーと ADAT 接続して手軽に録音を行うなどの用途のほかにも、コンパクトなヘッドフォンアンプとしても活用できる。

【問い合わせ先】

株式会社シントックスジャパン

Tel:03-3560-6645 Fax:03-3568-8825



「RME Digiface USB」

◆富士フィルム：フジノン 放送用 4K レンズ発表

富士フィルム(株)は 4K 対応の放送用レンズ「UA シリーズ」に新たに 3 機種をラインアップする。小型・軽量のポータブルズームレンズ「FUJINON UA18x5.5」と「FUJINON UA14x4.5」は 2017 年 4 月下旬、27 倍のスタジオズームレンズ「FUJINON UA27x6.5」は 2017 年 6 月下旬の発売を予定している。同製品は NAB2017 に出展された。

「UA18x5.5」「UA14x4.5」「UA27x6.5」は自社独自の多層コーティング処理「HT-EBC(High Transmittance Electron Beam Coating)」を施し、高い透過率や色再現性を実現し、最新の光学シミュレーション技術を活用し光学設計を新たに行い、画面周辺の解像力低下とあらゆる収差を抑えることで、ズーム全域で 4K 画質を実現した。また、9 枚絞り羽の採用により円形に近い絞り形状を実現することでより自然なボケ味を活かした映像表現が可能になった。

「UA18x5.5」と「UA14x4.5」は、小型・軽量ボディによる高い機動性を実現したポータブルレンズで、近年の小型・軽量カメラ「4K カムコーダー」の登場により、ますます増えることが見込まれる肩担ぎスタイルでの 4K 撮影で威力を発揮する。「UA18x5.5」は質量約 2.04kg の小型・軽量化を実現した 4K 対応のズームレンズ。広角 5.5mm から望遠 100mm までの焦点距離を 1 本でカバーし、報道や各種番組制作のロケなどの機動力が必要とされる撮影現場にも対応する。最短撮影距離 0.4m での撮影が可能。

「UA14x4.5」は、全長約 238.5mm の小型ボディを実現した 4K 対応のワイドズームレンズ。超広角 4.5mm の焦点距離を活かし、スポーツ中継や各種番組制作のロケなどで奥行きのある臨場感溢れる映像を撮影することが可能。最短 0.3m までの近接撮影ができるため、屋内での限られたスペースでの使用も可能。

「UA27x6.5」は広角 6.5mm から望遠 180mm を実現した 27 倍レンズ。ニュースやバラエティ、音楽制作などのスタジオ撮影に最適

。会場全体を映すコンサート・ライブ中継など、多彩な撮影シーンで高精細な 4K 画質を実現する。最大口径比「F1.5」の大口径レンズを搭載し、4K 対応の高い光学性能を最大限引き出す。ズームやフォーカスの位置情報などのレンズデータを高分解能で出力できる 16bit エンコーダーを標準装備。CG 映像とライブ映像を合成できるバーチャルスタジオなど、さまざまなシステムとの連携が可能。

【問い合わせ先】

富士フィルム株式会社

光学・電子映像事業部 営業グループ

TEL:048-668-2143



「FUJINON UA18x5.5」



「FUJINON UA14x4.5」



「FUJINON UA27x6.5」

◆一般社団法人放送サービス高度化推進協会：衛星左旋円偏波による4K試験放送開始

一般社団法人放送サービス高度化推進協会（A-PAB）は2017年4月1日午前11時に東経110度CSを利用した衛星基幹放送による日本初の「左旋円偏波による4K試験放送」を開始した。この試験放送は、4K・8K放送の基本的な伝送路となる左旋円偏波の一番高い周波数（IF帯3224MHz）を使って行われ、2018年12月より開始されるBS・110度CSによる実用放送にむけた、4K・8K放送の受信・伝送システム、受信機器の開発、試験、検証に資することを目的としたもの。

左旋円偏波を利用した放送には従来のアンテナは対応していないため、新たな4K・8K放送を視聴するためには対応する受信機器とアンテナの交換などが必要になる。同試験放送は現在市販されているテレビでは受信できないため一般の家庭で視聴することはできない。A-PABは去年12月1日に開始した「BS4K・8K試験放送」に続き、この「左旋円偏波による4K試験放送」を行うことで2018年に始まる4K・8K実用放送にむけて、さらなる放送サービスの高度化の整備を進めていく。

【問い合わせ先】

一般社団法人放送サービス高度化推進協会 左旋試験放送事務局
TEL:03-5785-3736

◆テクトロニクス：PRISMプラットフォームでハイブリッドIP/SDIインフラストラクチャのモニタリング機能を強化

テクトロニクスは、4月5日に、業界初のソフトウェアベースのハイブリッドIP/SDIメディア解析プラットフォームである「PRISM」の機能強化を発表した。最新規格のサポート、IPビデオ・ネットワーク品質測定機能の強化により、システム・インテグレーションとオペレーションの問題を解決し、トラブルシューティング時の詳細解析に貢献する。今回、外部ディスプレイを利用する1RU形状のプラットフォームを追加することにより、ディスプレイ内蔵型の現行3RU製品を補完する。



同製品は4月22日～27日に米国ラスベガスで開催されたNAB 2017(全米放送機器展)で展示された。新しい強化された機能は、PTP同期タイミングの解析、SMPTE ST 2022-7の冗長サポート、IGMP V3、ネットワーク管理システムに統合するためのAPIサポート、詳細解析のためのIPストリーム・キャプチャ機能など。これらの機能は、現行の「PRISM」に搭載されているPIT(Packet Interval Time)ヒストグラムとトレンド・グラフ、EBU-TECH 3337のTS-DF(Time Stamped Delay Factor)の機能に追加される。リアルタイムIP測定機能により、放送/ITのエンジニアはIPネットワーク問題の原因を特

定しトラブルシューティングできる。

NABでは、ライブIPプロダクション・アプリケーションのための機能強化に加え、コンテンツ収録とポストプロダクション・アプリケーションのために、「PRISM」によるQuad-Link 3G-SDIとSingle Link 12G-SDIによるHDR(High Dynamic Range)4Kフォーマット・サポートが展示された。また、シグナル・インテグリティ検証のための12G-SDIインターフェースによるアイ・パターン測定も展示された。

【問い合わせ先】

テクトロニクス お客様コールセンター
TEL:0120-441-046 FAX:0120-046-011

◆デジタル・ストリームス：サーバー用HDDも簡単にデータ消去が可能なHDDデュプリケータ発売

(株)デジタル・ストリームスはデータ・サーバー・センター用SASドライブのデータ消去に最適な「スーパーデューパー MT-SAS シリーズ」消去デュプリケータを発売した。各ポートが非同期し独立しているため、早くジョブを終えたドライブを次のドライブと交換し効率の良い作業が可能。データコピーと消去が最大毎分18GB。データサーバーセンターで多く使用されるSAS、HDD、SSDのデータコピーおよびデータ消去に対応している。

現在、テストをしてみたいユーザーにポート数(マスタ:ターゲット)1:7の機種「FURHMT700S」のデモ機を1週間貸し出ししている。希望の方は同社HPまで。

【問い合わせ先】

株式会社デジタル・ストリームス 営業担当
TEL:03-5812-3751 FAX:03-5812-3752

◆ゼンハイザー：新製品のハイエンドヘッドフォン「HE 1」発売

ゼンハイザー・ジャパン(株)は受注生産のエレクトロスタティック型のヘッドフォンシステム「HE 1」を4月20日から発売した。1991年に発売したハイエンドヘッドフォン「Orpheus」の後継モデルとして位置づけられている。



真空管アンプとトランジスタアンプの長所を融合させた同機は、人の可聴範囲をはるかに超える周波数応答特性を備えており、金蒸着セラミック電極やプラチナ蒸着ダイヤフラムなどの6000種類を超えるコンポーネントはどれも選び抜かれた素材を使用している。

◆ゼンハイザー:「TeamConnect Wireless(TC-W)」新製品発売

ゼンハイザージャパン(株)は Web 会議用ポータブル音響デバイス「TeamConnect Wireless (TC-W)」シリーズの新製品「TC-W SET TRAY」「TC-W SET TRAY-M」を 4 月 3 日に発売した。



「TC-W SET TRAY」

「TC-W SET TRAY」は据え置き型の充電とレイと 4 台のサテライト (スピーカーフォン) がセットになった製品。充電トレイからの取り外しがより簡単になっておりこれまで以上にスピーディにミーティングを開始できる。「TC-W SET TRAY-M」は 2 台のサテライトがセットになったバージョンでより小規模のミーティングのニーズに対応している。

「TC-W」は専用充電端末と複数のサテライトで構成されており多様な Web 会議システムに対応する。サテライト間は全てワイヤレス (1.9GHz・DECT) でリンクされるのでわずらわしい結線の必要はなく、どんなテーブル構成にも柔軟に対応する。充電端末から取り外すだけで自動的に電源が入り、即座に会議に使用でき、持ち運びが容易な為、会議室のスケジュール次第では別の部屋に持ち出して使用する事も可能。ケーブルレスなので導入工事は不要。

◆ゼンハイザー:スピーカーフォン「SP 220シリーズ」発売

ゼンハイザージャパン(株)はユニファイドコミュニケーション用スピーカーフォン「SP 220 シリーズ」を 5 月 1 日から発売した。



「SP 220 UC/SP 220 MS」はユニファイドコミュニケーション環境において、1 ~ 12 人までの PC ソフトフォンや Web 会議などを利用するビジネスユーザーへ向けたプレミアムポータブルスピーカーフォン。「SP220」はデュアルスピーカーフォンとなり 1 台での使用も可能。1 台での使用時は USB だけでなくタブレットやスマートフォンの 3.5mm 4 極オーディオ端子にも接続できるので様々なワークスタイルに合わせて使い分けが可能。また、「SP 220 MS」は Skype for Business 認証モデルである。

【問い合わせ先】

ゼンハイザージャパン株式会社
<http://www.sennheiser.co.jp/>

◆ヤフー: Handy Marketing、博報堂DYメディアパートナーズ、Yahoo! JAPAN、次世代型メディアプランニングツール「Handy Media Planner」を提供

(株) Handy Marketing、(株)博報堂DYメディアパートナーズ、ヤフー(株)は、メディア横断の統合マーケティングの支援を目的として、テレビとインターネットの次世代型メディアプランニングツール「Handy Media Planner」を提供することに合意した。

「Yahoo! メディアオーディエンスパネル」は、関東・関西に居住する約 8,000 人の調査モニターの 24 時間 365 日のテレビ実視聴データと Yahoo! JAPAN サイトの行動データを紐づけた Yahoo! JAPAN の調査パネル。同パネルを活用し、例えば、同一モニターのテレビ CM 視聴行動と検索行動の関連性や、テレビ CM とインターネット広告接触の複合効果などを分析できるようになる。

「Handy Media Planner」では、約 8,000 人の「Yahoo! メディアオーディエンスパネル」の広告接触などのデータを含めた 10 万人規模のテレビ CM およびインターネット広告の広告効果データを活用し、テレビ CM と PC・モバイルのインターネット広告を組み合わせた最適な出稿パターンを提示する。また、あらかじめ決められた出稿計画におけるリーチや認知、態度変容を推計することも可能。テレビ CM とインターネット広告を同一指標で評価することで、それぞれの最適な出稿計画を導くことができる。

【問い合わせ先】

ヤフー株式会社

<https://www.yahoo.co.jp/>

◆ヤマハ: 欧州地域最大規模の楽器見本市「Musikmesse 2017」および「Prolight + Sound 2017」出展

ヤマハ(株)と社長の現地法人であるヤマハ・ミュージック・ヨーロッパはドイツ・フランクフルトで 4 月 4 日から 7 日まで開催された国際オーディオ・ビデオ&映像・ステージ照明専門見本市「Prolight + Sound (プロライト・サウンド) 2017」および、同じく 4 月 5 日から 8 日まで開催された欧州地域で最大規模の楽器見本市「Musikmesse (ミュージックメッセ) 2017」に出展した。

【Prolight + Sound 2017】

大規模コンサート音響に対応するデジタル・ミキシング・システム「RIVAGE PM10」の新コンポーネントをはじめ、数々の業務用音響機器の新製品とライブ SR (コンサート用音響) や設備向け音響機器などの最新のソリューションが展示された。

【Musikmesse 2017】

鍵盤楽器では、「TransAcoustic (トランスアコースティック)」 「Disklavier (ディスクラビア)」などのアコースティックピアノに加え、プレミアムピアノの新製品やグループ会社であるベーゼンドルファーのピアノも揃え、幅広いラインアップが展示された。また、電子ピアノ「Clavinova (クラビノーバ)」や電子キーボードの新モデルとこれ

らの楽しみ方を広げるアプリケーションも展示された。管楽器・弦楽器・打楽器では、新コンセプトの楽器やトランペット、サイレントバイオリン、ギター、ドラムなどの新製品に加え、グループ会社のLine 6のプロセッサーやギターの新製品も同社ブースで展示された。

【問い合わせ先】

ヤマハ株式会社

<https://www.yamaha.com/ja/>

◆ヤマハ：デジタル・ミキシング・システム「RIVAGE PM10」にコンポーネントを追加

ヤマハ(株)はプロフェッショナルオーディオ機器の新製品として、デジタル・ミキシング・システム「RIVAGE PM10」のコントロールサーフェス「CS-R10-S」を6月に、専用ネットワーク用TWINLANeカード「HY256-TL-SMF」を7月に発売する。また、「RIVAGE PM10ファームウェアV1.5」を7月にリリースする。

コントロールサーフェス「CS-R10-S」は、発売中のコントロールサーフェス「CS-R10」の約3分の2のサイズを実現したモデル。高い操作性はそのままに、「CS-R10」との組み合わせやメイン/モニター用など、さまざまな用途に対応できる。また、「HY256-TL-SMF」は、シングルモードファイバーに対応したTWINLANeカードで、デジタル・ミキシング・システム「RIVAGE PM10」の伝送距離の長距離化を実現する。最新のファームウェアV1.5は、今回発表した新コンポーネントへの対応に加え、Eventide社のウルトラハーモナイザー「H3000 Live」やDan Dugan Sound Design社のオートマチックミキサーなど、さまざまなプラグインを新たに搭載する。

【問い合わせ先】

株式会社ヤマハミュージックジャパン PA 営業部

プロオーディオ・インフォメーションセンター

TEL:0570-050-808

◆ソニー：新開発ノンスリップパネル搭載の高解像度電子ペーパー採用により読みやすさと書き味を大きく進化させたデジタルペーパー「DPT-RP1」を発売

ソニー(株)は電子文書をまるで紙のように読み書きできることを追求したデジタルペーパー「DPT-RP1」を6月5日に発売する。同機は重さ約349g、厚さ約5.9mmで、A4サイズ相当となる13.3インチ(1650×2200ドット)の高解像度電子ペーパーディスプレイを搭載した世界最薄最軽量のデジタル端



末。内蔵メモリーに約1万ファイルの電子文書をPDF形式で保存でき、大量の電子文書を手軽に持ち運ぶことが可能。前機種デジタルペーパー「DPT-S1」は、現在、文献や論文などの文書を扱う大学教員や医師、また大量の紙を扱う税理士や弁護士などの様々な職種の方々に活用され、ペーパーレス化に貢献している。二世目となる「DPT-RP1」は、より紙のような使い勝手を実現できるよう、一層の軽量化を図るとともに、前機種よりもページ送り速度を最大約2倍に高めるなど、読みやすさが向上した。図や表などを瞬時に拡大することも可能。また書き味については、新規に独自開発されたノンスリップパネルを画面に採用し、ペン先の滑りを抑え、適度な抵抗感を持たせることで、より紙に近い書き心地を実現している。

新たに提供されるPCアプリケーション「Digital Paper App」を用い、ワイヤレス通信でも本機とパソコンの間でのPDFファイルの出し入れや管理を簡単に行える。さらに企業や組織などのシステムにデジタルペーパーを連携させるための「デジタルペーパー連携サーバーソフトウェア」の提供がパートナー企業向けに予定されており、幅広い分野に対してデジタルペーパーの効率的な活用を促進していく。

紙の作業で行われることが多い、文書を見比べる、文書を読みながらノートに書き込むなどの作業を、2画面表示機能を利用して実現することが可能。また、ペンによる手書きのコピー&ペーストや、手書きした「☆」型と「*」の2種類のマークによる検索機能の他、テンプレートを選べるデジタルノート機能が搭載されている。さらに、画面ロックとデータ暗号化で盗み見や情報漏えいを防止するセキュリティ機能も搭載。

【問い合わせ先】

ソニービジネスソリューション株式会社 業務用商品購入相談窓口

TEL:0120-580-730

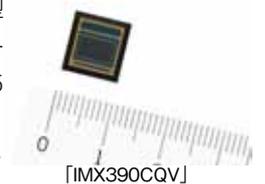
◆ソニー：LEDフリッカーの抑制と高画質なHDR撮影を同時に実現する車載カメラ向け高感度CMOSイメージセンサーを業界初の商品化

ソニー(株)は車載カメラ向けの1/2.7型有効245万画素CMOSイメージセンサー「IMX390CQV」を商品化し、2017年5月からサンプル出荷を開始する。

同イメージセンサーは、LED標識や信号機などの撮影時に起こるLEDのちらつき

(LEDフリッカー)を抑える機能と、120dBの広いダイナミックレンジでの撮影を実現するHDR機能を搭載している。LEDフリッカー抑制機能とHDR機能の同時利用を可能にしたイメージセンサーの商品化は業界初で、同社独自の画素構造と露光方法により実現した。また高感度特性により、月明かりに相当する低照度0.1ルクスの環境下でも高画質なカラー映像の撮影が可能。

近年、標識や信号機などの交通設備や、ヘッドライト、ブレーキランプなどの車の装備の光源にはLEDが多用されている。また、車載カ



メラは、屋間のトンネルの出入り口など明暗差の大きな場面でも、ダイナミックレンジの広い高画質な映像を撮影することが求められる。同イメージセンサーは、それらの状況に対応し、LEDフリッカー抑制とHDRの機能の同時利用を可能にすることで、車を取り巻く様々な交通環境において、認識精度の向上を実現する。

「IMX390CQV」は、自動車向け電子部品の信頼性試験基準「AEC-Q100 Grade2」を今年度中に満たす予定。さらに、同社では初めて自動車向け機能安全規格「ISO26262」に準拠した開発プロセスを導入し、車載向けとしての高い設計品質を実現しているほか、機能安全要求レベル「ASIL C」に対応している。車載用として求められるこれらの基準と品質に対応することで、先進運転支援システム(ADAS)向けの前方向センシングカメラや、今後バックミラーの代わりとして車への採用拡大が予想される「カメラモニタリングシステム(CMS)」といった車内モニターに人物や障害物を明瞭に映し出す用途としても適している。

◆ソニー：E Ink社とソニーセミコンダクタソリューションズ、電子ペーパーディスプレイの事業を運営する合弁会社の設立で合意

E Ink社と、ソニー(株)の子会社であるソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社は、電子ペーパーディスプレイを活用した商品ならびに関連するアプリケーションおよび連携プラットフォームの企画・開発・設計・製造・販売などを担う合弁会社を設立することで合意した。E Ink社は、1992年に台湾の大手製紙印刷会社YFYの傘下において設立され、E Inkはこの10年足らずの間に、電子ペーパーディスプレイ技術により電子リーダー市場を確立し、数十億ドル規模の新市場を開拓した。

ソニーとE Ink社は2004年以降、様々な製品を通じて良好なパートナーシップを築いており、ソニーはE Ink社の電子ペーパーディスプレイを採用したデジタルペーパーなどを販売してきた。今回設立する合弁会社では、E Ink社が有する電子ペーパーディスプレイの開発や製造技術と、ソニーが行ってきた商品開発やマーケティングの知見を互いに生かすことで、電子ペーパーディスプレイを活用した新たな商品やシステムなどを創出し、市場の拡大を目指す。商品やアプリケーションを提供するほかに、パートナー企業とのサービスやシステム連携などに基づく事業の展開を様々な業態の事業者へ働きかけ、市場の活性化および新市場の創造を推進していく。将来的には電子ペーパーディスプレイを、社会基盤を構築する一つのツールにまで普及させることを目指す。

同合弁会社は台湾に登録され、日本における子会社は4月に発足し、関係当局の必要な承認及び許可の取得後、本合弁会社はすみやかにその運営を開始する予定。新会社の資本金は420百万台湾ドル(約15億円)。合弁会社の主要株主となるE Ink社の子会社と、ソニーセミコンダクタソリューションズの合計出資比率は約70%で、残りの株式については、新興企業に投資するベンチャーキャピタル企業が保有する見込み。合弁会社の取締役会は、E Ink社とソニーセミコンダクタソリューションズが任命した取締役により構成され、ソニーセミコンダクタソリューションズの代表取締役社長である清水照士が取締役を務め、E Ink社の社長でもあるJohnson Leeが会長を務める予定。

◆ソニー：4K有機ELテレビ「ブラビアA1シリーズ」が国際的なデザイン賞「レッドドット・デザイン賞」の最高賞を受賞

ソニー(株)は2017年のレッドドット・デザイン賞プロダクトデザイン部門において最高賞である「ベスト・オブ・ザ・ベスト」を受賞した。受賞した製品は4K有機ELテレビ「ブラビアA1シリーズ」。レッドドット・デザイン賞はドイツのノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンターが主催する国際的なデザイン賞で、プロダクトデザイン部門の対象は2015年以降、2017年7月1日までに販売が開始される製品のデザインで、革新性、機能性、品質、人間工学、持続可能性、象徴性など9つの基準で、世界的なデザインの専門家により審査される。2017年の応募総数は約5000件(54カ国)で、最高賞にあたる「ベスト・オブ・ザ・ベスト」はそのうちの1.5%の製品が受賞した。

◆ソニー：乃木坂46全国握手会にて「PROJECT REVIEWN」がサービスを提供

ソニー(株)はイベント会場限定の映像コンテンツ販売プラットフォーム「PROJECT REVIEWN」を活用し、乃木坂46 17thシングル「インフルエンサー」発売記念全国握手会にて、当日のミニライブの映像をその場でダウンロードできるサービスを提供する。

「PROJECT REVIEWN」は同社の新規事業創出プログラム「Seed Acceleration Program (SAP)」から生まれた、イベント会場でチェックインしウェブサイト上で購入もしくは2次元バーコードと交換することで、参加したイベントに関連する映像コンテンツをスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末にダウンロードして、いつでもどこでも好きな時に視聴できる体験型の映像ダウンロードサービス。専用アプリのダウンロードは無料で、iOSとAndroidに対応している。

【問い合わせ先】

ソニー株式会社

<https://www.sony.co.jp/>

◆ソニーマーケティング：ソニーストア札幌が4月1日にオープン

ソニーマーケティング(株)はソニーの先端テクノロジーや最新の製品が実際に体験できるソニーストア札幌を、「出あったことのない感動が待っている」をテーマに、札幌市の大通地区に4月1日オープンした。銀座、大阪、名古屋、福岡に続き5番目の出店となる。

プロから一般まで全てのデジタル一眼カメラ「α」ユーザーを対象とした様々なサポートを提供する「α Plaza」も開設される。「α Plaza」では製品体験やαテクニカルアドバイザーによるコンサルティング、使い方やメンテナンスの相談、そして、ギャラリースペースが提供される。プロ向けには製品の修理受付およびイメージセンサーのクリーニングをはじめとする充実したアフターサービスを提供するとともに、使い方相談や機材コンサルティングなどを、一般向けには専任スタッフによるイメージセンサーのクリーニングや製品の使い方、

技術的な問い合わせへの対応や、基本的な使い方からプロカメラマンによる専門的な撮影テクニックのレクチャーなどを行う。

発売前の新製品や先端テクノロジーを体験できる先行展示や体験会、トークショーやさまざまなコンテンツとのコラボレーションイベントを開催し、新しい感動体験を提供する。

【問い合わせ先】

ソニーマーケティング株式会社

<http://www.sony.jp/CorporateCruise/SMOJ-info/>

◆ソニー：本体約 215g の軽量、光学式手ブレ補正機能を搭載したコンパクトなデザイン HD ハンディカム「HDR-CX470」発売

ソニー(株)は小型バッテリーの採用などにより質量を約14%減の約215gに軽量化し、コンパクトなデザインで持ち運びに便利なデザ



タル HD ビデオカメラレコーダー ハンディカム「HDR-CX470」を発売する。「光学式手ブレ補正 (インテリジェントアクティブモード)」を搭載し、ズームから小走りでの撮影まで、さまざまな場面で安定したなめらかな映像を手軽に撮影できる。撮影シーンに合わせた最適な映像を自動設定してくれるおまかせオート撮影、撮影時のズームや笑顔などの情報や設定したハイライトポイントから自動でシーンを分析し、ハイライト場面を抽出するハイライトムービーメーカー機能などの機能が備わっている。

◆ソニー：焦点距離 400mm までをカバーする G マスター超望遠ズームレンズ「FE 100-400mm F4.5 - 5.6 GM OSS」を発売

ソニー(株)は 35mm フルサイズ対応の α[E マウント] レンズとして初めて、焦点距離 400mm までをカバーする G マスター超望遠ズームレンズ「FE 100-400mm F4.5 - 5.6 GM OSS」を発売する。発売日は 7 月予定。



プレミアムレンズシリーズの G マスターとして、高い描写性能で広い望遠域をカバーし、スポーツや野生動物の撮影など様々な撮影シーンに対応する。さらに、ミラーレス一眼カメラ「α9」をはじめ、「α7 シリーズ」および「α6000 シリーズ」のカメラとの組み合わせで、高い機動力や操作性を発揮する。

色収差を低減する ED (特殊低分散) ガラス 2 枚とスーパー ED ガラス 1 枚、フレアやゴーストを抑制するソニー独自のコーティング技

術ナノ AR コーティングを採用した最新の光学設計により高い解像性能を実現した。また、光学設計の工夫や製造工程で球面収差を管理することで、被写体を引き立てる自然で美しいぼけ描写ができる。ダイレクトドライブ SSM とダブルリニアモーターによるフローティングフォーカス機構、および最適化された AF アルゴリズムによる高速性・追従性に優れた AF 駆動が、カメラ本体の AF 性能を最大限に引き出し、高い被写体追従性能を実現する。また、同機構により最短撮影距離 0.98m、最大撮影倍率 0.35 倍の近接撮影も可能。クラストップレベルの 1,395g の軽量設計で携行性にも優れ、手持ち撮影に便利な手ブレ補正機構には流し撮りに効果的なモードも備えている。

【問い合わせ先】

ソニーマーケティング株式会社 買い物相談窓口

TEL 0120-777-886 (フリーダイヤル)

TEL 050-3754-9555 (携帯電話・PHS・一部の IP 電話など)

◆キヤノン：「写真新世紀」2017年度(第40回公募)の応募受付を開始

キヤノン(株)は新人写真家の発掘・育成・支援を目的とした文化支援プロジェクト「写真新世紀」の2017年度(第40回公募)の募集を4月20日から開始した。2015年度よりデジタル作品(静止画・動画)の受付を開始している。

【問い合わせ先】

写真新世紀ホームページ

<http://global.canon/ja/newcosmos/>

キヤノン株式会社 CSR 推進部

TEL:03-5482-4792

◆キヤノン：業務用映像機器 機能追加ファームウェア公開

キヤノン(株)は 3 月 30 日に業務用映像機器の機能追加ファームウェアを公開した。対象製品はデジタルシネマカメラ「EOS C700」「EOS C100 Mark II /C100 DAF/C100」、業務用デジタルビデオカメラ「XC15」「XC10」、多目的カメラ「ME20F-SH」。

アップデート内容

「EOS C700」

- 1.CDX-36150に4.5KのRAW記録や4K60PのApple ProRes記録をはじめとする複数の記録モードが追加。
- 2.CDX-36150装着時、カメラ本体内のシステム設定からCDX-36150のファームアップができるようになった。
- 3.リモートコントローラー「RC-V100」との通信制御の信頼性を向上。

「EOS C100 Mark II」

- 1.シャッタースピードのアングルモード時の操作性が改善。
- アングルモード設定時にフレームレートを変更しても、アングル値が固定されるようになった。
 - 2.EF24-105mm F4L IS II USM装着時、周辺光量補正に対応。
- 「EOS C100 DAF/C100」**

1.「CN7x17 KAS S/E1」「CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S」「CN20x50 IAS H/E1」装着時(レンズ側もファームウェアの更新が必要)

- 装着レンズの型名や焦点距離などのメタデータを取得し、カメラ側で表示可能に。

- 周辺光量補正に対応。

- カメラのダイヤル操作でアイリス絞りのマニュアル調節が可能に。

- カメラ本体のグリップにあるジョイスティックでズームを操作できるように設定可能に。

- リモートコントローラー「RC-V100」(別売り)でのフォーカス/ズーム/アイリスの操作が可能に。

- デュアルピクセル CMOS AF によるオートフォーカスが可能。(「CN20x50 IAS H/E1」除く)

- オートアイリス、プッシュオートアイリスが可能に。

- ドライブユニットの REC スタート/ストップボタンと連動するようになった。

2.周辺光量補正の対応レンズ「EF35mm F1.4L II USM」、「EF50mm F1.8 STM」、「EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM」、「EF24-105mm F4L IS II USM」が追加された。

「XC15」「XC10」

1.CFastカード(VPG130)に対応した。

「ME20F SH」

1.カメラモード(Tv/Av/AGC)が追加。

- Tv:シャッタースピードを選択すると、絞り、ゲイン、ND フィルターを自動調整する。

- Av:絞りを設定すると、シャッタースピード、ゲイン、ND フィルターを自動調整する。

- AGC:シャッタースピードと絞りを設定すると、ゲイン、ND フィルターを自動調整する。

2.「CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S」装着時

- 装着レンズの型名や焦点距離などのメタデータを取得し、カメラ側で表示可能に。

- 周辺光量補正に対応。

- カメラ本体のジョイスティックでアイリス絞りのマニュアル調節が可能に。

- リモートコントローラー「RC-V100」(別売り)でのフォーカス/ズーム/アイリスの操作が可能に。

- ワンショット AF が可能に。

- プッシュオートアイリスが可能に。

- 専用グリップ「ZSG-C10」(別売り)の REC スタート/ストップボタンと連動するようになった。

3.周辺光量補正の対応レンズ「EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM」、「EF35mm F1.4L II USM」、「EF24-105mm F4L IS II USM」が追加された。

4.クロマキー処理用調整パラメーターが追加された。

5.カメラモードAuto時、「ホワイトバランスセット」、「プリセット設定」、「色温度設定」のホワイトバランス設定が追加された。

6.映像出力フォーマットに25PsFが追加された。

7.SDI「59.94P/59.94i」または、「50.00P/50.00i」のP/i同時出力に対応。

- フレームレートを59.94P(50.00P)に設定した時、「3G/HD-SDI 1 MONITOR端子」からの出力を「59.94P(50.00P)」または、「59.94i(50.00i)」にメニューで選択可能。ただし、3G/HD-SDI 2端子の出力は設定したフレームレート59.94P(50.00P)が出力される。

【問い合わせ先】

キヤノン株式会社

ソフトウェアダウンロードメニュー

<http://cweb.canon.jp/e-support/software/index.html>

◆キヤノン：4K カメラに対応し幅広い焦点距離と高い操作性を実現した COMPACT-SERVO 望遠レンズ「CN-E70-200mm T4.4 L IS KAS S」を発売

キヤノン(株)は動画撮影に適した幅広い焦点距離 70 ~ 200mm と高い操作性を実現し、4K および HD カメラに対応する光学性能を備えた COMPACT-SERVO (コンパクト サーボ) レンズシリーズの新製品「CN-E70-200mm



T4.4 L IS KAS S) を 2017 年 10 月上旬に発売する。同製品は EF マウントを採用し、COMPACT-SERVO レンズの特長である小型・軽量の筐体に加え、電動操作によるズーミングなど、多様な動画撮影に対応した操作性を兼ね備えているため、快適なワンマンオペレーションも可能。ズーミング中でも安定した画作りができるレンズ機構と揺れが少ない滑らかな映像を提供するシフト式光学防振機構なども搭載されており、ドキュメンタリー制作や報道現場での撮影、スポーツやネイチャーの遠方撮影など、さまざまな撮影現場で映像表現領域の拡大に貢献する。

【問い合わせ先】

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

イメージングソリューション営業部

TEL:03-3740-3304

◆キヤノン：14年連続でレンズ交換式デジタルカメラの世界シェア No.1 を達成

キヤノン(株)はレンズ交換式デジタルカメラ(デジタル一眼レフカメラおよびミラーレスカメラ)の世界市場において、2003年から2016年までの14年連続で台数シェア No.1 を達成した。

キヤノンはレンズ交換式カメラ「EOS シリーズ」の基本コンセプト

「快速・快適・高画質」を追求し、キーデバイスである CMOS センサー、映像エンジン、および交換レンズを独自開発してきた。プロから高い信頼を得ているフラッグシップモデルから簡単な操作で高画質な撮影を楽しむことができるエントリーユーザー向けのモデルまで、強力なラインアップを揃えることで幅広いニーズに応えてきた。



【EOS 80D】

2003年、黎明期におけるデジタル一眼レフカメラとして画期的な小型・軽量と低価格を実現したエントリーモデル「EOS Kiss Digital」を発売し、市場拡大のきっかけを作り、圧倒的世界シェア No.1 を獲得した。その後もプロ向けの「EOS-1D」シリーズや、一眼レフカメラによる動画撮影を普及させた「EOS 5D」シリーズなど、エポックメイキングな製品を提案し続けてきた。

2016年3月にはハイアマチュア向けに本格的な静止画撮影性能と動画撮影時における優れた操作性を備えた「EOS 80D」、4月にはスポーツ撮影で威力を発揮する最高約14コマ/秒の高速連写が可能なフラッグシップモデル「EOS-1D X Mark II」、9月には4K動画撮影に対応する「EOS 5D Mark IV」を発売した。また11月にはミラーレスカメラの上位機種「EOS M5」を発売し、レンズ交換式カメラのラインアップのさらなる充実を図った。これらの魅力的な新製品と強力なラインアップが牽引し、キヤノンは14年連続で世界シェア No.1 を達成した。2017年4月には、高精度 AF 技術「デュアルピクセル CMOS AF」を採用したミラーレスカメラ「EOS M6」、一眼レフカメラ「EOS 9000D」、EOS Kiss X9i」を発売した。

【問い合わせ先】

キヤノンお客様相談センター
TEL:050-555-90062

◆キヤノン：撮影倍率等倍で迫力あるマクロ撮影が可能な LED ライト内蔵マクロレンズ「EF-S35mm F2.8 マクロ IS STM」を発売

同社は撮影倍率等倍でマクロ（近接）撮影ができる小型・軽量の LED ライト内蔵マクロレンズ「EF-S35mm F2.8 マクロ IS STM」を2017年5月下旬より発売する。

同製品は被写体に接近して等倍で迫力あるマクロ撮影ができ、身の回りの小物や花などの細部や質感を表現するマクロ撮影に適している。また、球面収差や像面湾曲を補正する非球面レンズ1枚の採用により、遠景撮影から近接撮影まで優れた光学性能を実現し、画面中心から周



辺部までコントラストの高い鮮明な描写を実現した。開放絞り値 F2.8 の明るさによるきれいなボケ味、リードスクリュタイプステップモーターを採用したフォーカス機構により、静止画、動画撮影においてスムーズで快適な AF が実現された。焦点距離イメージは、標準レンズとしても使用できる 56mm 相当で、人の視野に近い自然な画角と遠近感でポートレートやスナップ、夜景撮影など、マクロ撮影以外の幅広い用途にも利用可能。

「EF-S レンズ」シリーズとして初めて LED ライトが内蔵された。レンズ前面の左右に配置された LED ライトにより、特別な機材を用意することなく、手軽にライティングを施した撮影が可能。左右各1灯の LED ライトは、LED ライト点灯ボタンの操作により、両側点灯と左右どちらかの片側点灯の選択や、明るさの強弱の切り替えが可能。LED ライトを活用することで、被写体を明るく照らしたり、被写体に陰影や明暗をつけたりすることができ、簡単に立体感のあるマクロ撮影が可能になる。光と影により奥行き印象を調整し、身近な小物や植物、料理などのドラマチックな撮影も可能。

通常撮影時に影響を受けやすい角度ブレに加え、撮影倍率が大いマクロ撮影時に影響を受けやすいシフトブレも同時に補正する「ハイブリッド IS」が搭載された。三脚を立てられない場所や薄暗いシーンでも、ブレの少ないマクロ撮影ができる。レンズ先端から 30mm まで被写体に近づくことができ、被写体に近寄って撮影する場合でもレンズの影ができにくい先細り形状を採用。一般的なレンズの形状では、被写体に極端に近づくるとレンズが被写体近くの物にぶつかってしまったり、影をつくってしまったりすることを、レンズ先端部の先細り形状により軽減する。LED ライトやハイブリッド ISなどを搭載しながらも、持ち運びを考慮した小型・軽量設計で、全長 55.8mm、質量約 190g を達成した。

【問い合わせ先】

キヤノンお客様相談センター
TEL:050-555-90002

◆キヤノン：多目的カメラ「ME20F-SH」を搭載し、夜間等の暗所撮影に対応したプロドローン社製全天候型災害対策用ドローン「PD6E2000-AW-CJ1」を発売

キヤノンマーケティングジャパン(株)はキヤノン製超高感度カメラ「ME20F-SH」搭載の(株)プロドローンが開発した災害対策用ドローン「PD6E2000-AW-CJ1」を2017年7月に発売する。



これまで夜間などの低照度環境下では赤外線投光によるモノクロ撮影が一般的だったが、「ME20F-SH」は肉眼で被写体の識別が困難な暗闇でもカラーフルHD動画の撮影が可能のため、夜間でも上空から被災状況を撮影することができる。全天候型の機体性能にあわせカメラ部も全天候型のハウジング構造にするなど雨天等の悪環境でも使用できる設計となっている。また、遠隔地通信機能も備えており、飛行しながらリ

アルタイムに災害対策本部などへ映像を配信することが可能。

同社はドローンテックラボ仙台に加盟し、同製品の実証実験をドローン特区である仙台市にて2017年内に実施する予定。今後、災害対策に注力している自治体と協力し、特区を活かしたドローンのフライト実験をすることで実用化と付加価値向上を推進する。

日本国内のドローン市場は2022年に期待本体のほかサービス分野や周辺機器をあわせて2116億円の市場規模になることが予想されている。同社グループは2016年より開始した5カ年計画「長期経営構想フェーズIII(2016年～2020年)において”イメージング&ITソリューション”による成長領域へのシフトと事業領域の拡大を目指しており、その一環としてドローンを活用した新たなソリューションの提供を推進している。今後は2016年9月に投資したプロドローン社とともに、ドローンを活用した映像ソリューションを開発し、災害対策用のほか、電鉄会社の架線点検、インフラ点検、農業分野など、業種別のソリューションを展開し、2020年までに売上50億円を目指す。

「PD6E2000-AW-CJ1」は今後、第一回映像伝送 EXPO (2017年4月5日～7日、東京ビッグサイト)、自治体総合フェア 2017 (2017年5月24日～26日、東京ビッグサイト)での展示を予定している。

【問い合わせ先】

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
ドローンビジネス事業推進室
03-6719-9477

◆キヤノン：業務用 4K ディスプレイ 3 製品の新たなファームウェアを無償提供



「DP-V1710」

「DP-V2410」

「DP-V2420」

キヤノン(株)は業務用 4K ディスプレイ「DP-V1710 / DP-V2410 / DP-V2420」を対象に各種機能を追加するファームウェアを2017年6月上旬から無償提供する。デジタルシネマカメラと4Kディスプレイの連携を強化し、HDR撮影時における映像確認の利便性を向上させることにより映像製作現場でのワークフローを強力に支援する。

キヤノン製デジタルシネマカメラとの連携強化

「EOS C700」EOS C700 GS PL」で撮影した4KのRAW映像を、外部機器を介さずに3G-SDIケーブルで接続するだけで表示できる。また、両機種に加え「EOS C300 Mark II」で撮影したすべての映像情報を取得し、カメラ側の画質設定値に連動した表示や、メタデータの表示が可能になる。さらに、デジタルシネマカメラにアナモフィックレンズを装着した特殊撮影時には映画特有の2.39:1の画角での表示ができる。

ARRI 社製デジタルシネマカメラとの連携強化

ARRI 社製のデジタルシネマカメラと接続するだけで「LOG C」で

撮影した映像をHDRで表示できる。

HDR 撮影アシスト機能を拡充

1画面の4K映像を左右半分に分けてHDRとSDRで表示することができる。さらに、4K映像を縮小し、映像全体を左右2画面に並べて表示することが可能になる。また、HDR映像の実輝度の明るさに応じて着色して表示ができるようになるため、映像の輝度分布を視覚的に確認することが可能になる。

【問い合わせ先】

キヤノンお客様相談センター
TEL:050-555-90006

◆キヤノン：高まる高輝度化のニーズに応えラインアップを拡充、「パワープロジェクター」シリーズ 4 機種を発売

キヤノン(株)は「パワープロジェクター」シリーズの新製品として従来機種に対して高輝度化を実現したLCOS方式のプロジェクター2機種とDLP方式のプロジェクター2機種を発売する。高輝度・高画質なレンズ交換モデルからポータブルモデルまでラインアップを拡充し高まる高輝度化のニーズに応える。



「WUX500ST」



「WUX6500」



「LV-HD420 / LV-X420」

「WUX6500」は、高精細な映像投写を実現するレンズ交換モデル、「WUX500ST」は、短い距離から大画面投写が可能な短焦点モデルで、LCOS方式のプロジェクターである。いずれもWUXGA(1920×1200画素)の解像度に対応し「WUX6500」は6500lm、「WUX500ST」は5000lmの高輝度な映像投写を実現している。また、独自開発の光学システム「AISYS(エイシス)」と映像エンジンにより、高輝度・高画質な映像投写を実現し、大会議室や展示会場、教育現場、プロジェクションマッピングやデジタルサイネージでの利用など、あらゆる場面で高輝度化のニーズに対応する。

「LV-HD420 / LV-X420」は、明るさと小型・軽量を両立したポータブルモデルのDLP方式のプロジェクター。いずれも従来機種より輝度を高め、さらなる高画質な映像投写を実現している。いずれも外形寸法約31.4cm×23.1cm×11.2cm、質量約3.4kgと小型・軽量ながら、4200lmの明るさを実現している。「LV-HD420」はフルハイビジョン(1920×1080画素)、「LV-X420」はXGA(1024×768画素)の解像度に対応している。

「WUX6500」、「LV-HD420 / LV-X420」は4月20日に発売され、「WUX500ST」は7月中旬に発売される。

◆キャノン：短い距離から高画質な映像の投写を実現する DLP 方式プロジェクター用交換レンズ「LX-IL08WZ」を発売

キャノン(株)は「パワープロジェクター」シリーズにおける DLP 方式の高輝度レンズ交換モデルに対応した、短焦点ズームレンズの新製品「LX-IL08WZ」を4月20日に発売した。同製品は「LX-MU700」、「LX-MU800Z」、「LX-MU600Z」などに対応している。



投写距離と画像横幅の長さが約 1.07 ~ 1.61 : 1 の投写比率を実現し、約 100 型の映像を約 2.3m の短い距離から投写することができるようになる。設置条件が制限される環境においても利用でき、幅広い用途での活用が可能。フローティングフォーカスシステムの採用により、投写映像周辺部の解像力の低下を抑制することができ、UD レンズの採用により色収差の発生を抑えることで、投写映像の最周辺部まで高解像な映像の投写を実現する。また、高精度な非球面レンズを搭載することにより、WUXGA (1920×1200 画素) の高解像度を維持した状態で、最周辺部まで歪曲を抑えた映像の投写を実現した。

【問い合わせ先】

キャノンお客様相談センター
TEL:050-555-90071

◆ヴィレッジアイランド：「TV Connect London 2017」に VICO-4 が出展



(株)ヴィレッジアイランドが開発・販売を開始した 4K 対応 TICO SDI コンバーター「VICO-4」が英国ロンドンで開催された大規模展示会「TV Connect London 2017」でデモ展示された。

SDI/光コンバーターで有名な Barnfind Technologies 社のブースで行われた同デモの目的は、4K60p の UHD 映像を、低遅延で画質を劣化させることなく遠距離伝送するための具体的・現実的なソリューションの提供である。

「VICO-4 エンコーダ」で 4K 映像を TICO で 1/4 に圧縮し、1本の 3G-SDI ケーブルで「VICO-4 デコーダ」に接続(伝送路相当)し、デコード出力をモニターに出力する。この 3G-SDI ケーブルを Barnfind 社の BranONE で光ケーブルに置き換えることで、低遅延で画質を劣化させることなく遠距離伝送をローコストで実現した。

「VICO-4」の特徴は、低価格、超低遅延(数十ラインの固定遅延)、ビジュアルロスレス 1/4 圧縮。また、デコーダは 4K を HD にダウンコンするコンバーターとしても活用可能。

【問い合わせ先】

株式会社ヴィレッジアイランド
<http://www.village-island.com>

◆ニクス：Excel を使ったリアルタイム 2D/3D テロップオンエアシステム、「celio」を販売開始

NIXUS-北海道日興通信(株)は Excel を使ったリアルタイム 2D/3D テロップオンエアシステム、「celio」を 2017 年 4 月 27 日から販売開始した。



同製品は専用の送出ソフトを必要とせず、表計算ソフト Excel のシートがそのままオンエア操作画面になる。Excel でデータを入力しボタンをクリックするだけでレイアウトファイルに反映しすぐにオンエアが可能。実数値を入力し、積算値や関数値をオンエアするなど、Excel のマクロ機能を使用した条件指定やデータの自動処理を放送で使用することや Excel データベース機能で、事前に登録した選手情報などを利用することもできる。

テロップのレイアウトは、全国の放送局で使用されている同社のテロップシステムと同じ作画ソフトで作成されており、3D テロップや動画も用意されている。レイアウトファイルとオンエア操作 Excel シートがセットになった様々なパッケージがあり、用途にあったパッケージを購入すればすぐに利用できる。

HD-SDI での出力や HDMI での出力など出力先を選択できる。また、他社映像システムとの連携も実現された。

【問い合わせ先】

NIXUS-北海道日興通信株式会社
<http://nixus.jp/>

◆エムアイセブンジャパン：時空を超えるような神秘的サウンドを届けるマルチエフェクト「WORMHOLE」販売開始

(株)エムアイセブンジャパンはクリーンなピッチ / 周波数シフト、エキセントリックなスペクトル・ワーピング、豊かなデュアル・リバーブ、ユニークなモーフィングを実現する Zynaptiq「WORMHOLE」を販売開始した。5月31日までイントロ・プライスとして 14800 円で販売される。

同製品は「スペクトル WARP」、「ピッチ / 周波数 SHIFT」、「デュアルでランダムなモジュレーション・ホール・REVERB」、「便利な DELAY」、「ドライ / ウェット・モーフィング FX BLEND」の 5 つのプロセッシング・モジュールから構成されており、柔軟なシグナル・パスと組み合わせることで、超高速で使用の簡単なハイエンド・マルチエフェクト・プロセッサとなり、繊細なものから極端なものまであらゆる種類のエフェクトをカバーする。

◆エムアイセブンジャパン：Softube Modular 用アドオン「Doepfer A-101-2 Vactrol LPG」販売開始

(株)エムアイセブンジャパンは DAW オーナーへのモジュラー・システムの全く新しいプラットフォーム Softube Modular 用のアドオンである「Doepfer A-101-2 Vactrol LPG」の販売を開始した。

リアルでオーガニックなレスポンスとテクスチャーを加えることの

できるロー・パス・ゲートは、その特徴的なサウンドによりオーガニック、バター、温かい、ウッディ、ゴム、音楽的、ナチュラル、アコースティックなどと表現されている。ロー・パス・ゲートは、伝説的なシンセサイザーの先駆者ドン・ブックラ氏による発明であり、Doepfer が優れた機能を追加することでこのコンセプトを発展させた。

同製品には新しく「Vact」スイッチが追加された。このスイッチで高速、中程度、低速のいずれかの応答時間を選択することで各アナログ・ユニットの個性の違いに対応できる。また、30種類以上のプリセットも収録されている。

【問い合わせ先】

株式会社エムアイセブンジャパン
<https://www.mi7.co.jp/>

◆シャープ：70型8K映像モニター「LV-70002」を発売

シャープ(株)は8K(スーパーハイビジョン)規格に準拠し、業界で初めて8K解像度でのHDR規格(HLG・PQ方式)にも対応した高精細・高画質な70型8K映像モニター「LV-70002」を6月30日に発売する。

同社は8K規格に準拠した世界初の85型8K映像モニター「LV-85001」を2015年10月に発売した。今回、新たに70型をラインアップに追加し、併せて8K(スーパーハイビジョン)試験放送対応受信機「TU-SH1050」も発売し、2018年に予定される4K/8K実用放送開始を控え、映像を制作される方々などに対し、8K対応製品の提案を強化する。

【問い合わせ先】

シャープ株式会社
お客様相談センター
TEL:0120-099-233

◆シャープ：統合型学習アプリケーション「Brain+(ブレインプラス)」を17年春から提供開始

シャープ(株)は辞書や参考書などを搭載したタブレット向けの統合型学習アプリケーション「Brain+」を開発し3月から提供を開始した。

同アプリケーションはカラー電子辞書「Brain」で培った検索機能と電子書籍で磨いた自動レイアウト技術をベースに開発された。タブレット採用校でのICT教育をサポートする。すでに中学・高校8校で導入が予定されている。iPad、Windowsに対応している。

カラー電子辞書「Brain」で培った検索機能や学習サポート機能の搭載
複数の辞書を横断して一度で検索できる「一括検索」、見出し語にない言葉を全てのコンテンツから検索する「全文検索」、教材の中の気になる言葉をなぞることで簡単に辞書を引くことができる「辞書連係」などの検索機能や、「音声読み上げ」、「マーカー／しおり」、「単語帳」などの学習をサポートする機能を搭載している。

電子書籍で磨いた表現、教材取込機能の搭載

電子書籍で磨いた技術を応用し、タブレットの画面上に実際の書籍に近いレイアウトでコンテンツを表示することができる。また、各校のオリジナルの教材などをアプリケーションに取り込むことができ、収録コンテンツと同じように検索機能や学習サポート機能を使える。

ニーズに合わせて選べる2タイプ

基本辞書だけを収録した「10冊版(ON-PB1A、ON-PB1W)」と、英語・数学・化学・物理・地学・日本史・世界史辞典などの学習教材を追加した「31冊版(ON-PA1A、ON-PA1W)」の2つが選べる。

充実の収録コンテンツ

両タイプとも基本辞書部分は共通で、英和／和英辞典は学習辞典として評価が高い「ジーニアス」と「オーレックス」の2種類を搭載、さらに本格国語辞典の「大辞林」、漢字総合辞典の「漢字源」、古語辞典など、中学・高校生向けの学習に役立つ辞書が収録されている。

同社は、同アプリケーションを5月17日(水)から19日(金)まで東京ビッグサイトにて開催される「第8回教育ITソリューションEXPO(EDIX)」に出展し、事業者、学校関係者を中心に幅広く紹介する。

◆シャープ：阪急電鉄 西宮北口駅に70V型マルチディスプレイを納入

シャープ(株)は、阪急電鉄西宮北口駅の2階改札内コンコースに、マルチディスプレイ用として業界最大の70V型のインフォメーションディスプレイ「PN-V701」を18台(縦3台×横6台)組み合わせた大画面マルチディスプレイを納入し、3月25日より阪急デジタルサインージ「にしきたワイドビジョン」として試験運用を開始した。

同マルチディスプレイは縦約2.61m×横約9.26m、379インチ相当のワイドな大画面で迫力ある映像表現を実現。西宮北口駅の利用者に向けた広告や各種情報配信に活用される。

【問い合わせ先】

シャープ株式会社
<http://www.sharp.co.jp/>

◆パナソニック：マイクロフォーサーズシステム用交換レンズ「H-E08018」発売

パナソニック(株)はデジタル一眼カメラLUMIX Gシリーズで採用している「マイクロフォーサーズシステム規格」に準拠した交換レンズ「H-E08018」を5月25日より発売する。

同製品は、16-36mmの超広角ズームレンズで、ライカの厳しい光学基準をクリアし、F2.8-4.0「ELMARIT(エルマリット)」の明るさを実現した。非球面EDレンズ1枚を含む4枚の非球面レンズの最適配置により、ズーム全域で画面



周辺部まで優れた描写特性を実現し、広大な風景撮影や日常のスナップ撮影など幅広いシーンで高画質な画像が得られる。最新の設計技術と制御技術により、AFサーチ時の画角変化を抑制、高速・高精度・静音なAFを実現するとともに、ズームやパンニング時の滑らかなF値変化制御を実現し、快適な4K動画撮影をサポートする。さらに、防塵・防滴仕様やマイナス10℃の耐低温性能にも対応、フィルター装着も可能。また、カメラを構えたままでフォーカスモードの変更ができる「AF・MF切換スイッチ」を採用し、直感的で快適な操作ができる。

【問い合わせ先】

パナソニック株式会社
LUMIX・ムービーご相談窓口
TEL:0120-878-638

◆パナソニック：屋外対応 HD インテグレートドカメラ「AW-HR140」を発売

パナソニック(株)は防水・防塵機能や耐重塩害、熱環境対応など、さまざまな厳しい屋外の環境で柔軟な運用を実現する屋外対応 HD インテグレートドカメラ「AW-HR140」を2017年6月に発売する。



カメラ部は、1/2.86型フルHD 3MOSセンサーとDSP (Digital Signal Processor) を搭載。高度な映像処理で高感度、高S/N比、高解像度を実現する。筐体は、IP65の防水・防塵仕様やワイパーの標準搭載、耐重塩害塗装によって海岸や防波堤などの設置環境にも対応。また、同製品は放送用カメラとしては業界で初めて、光学式の揺れ補正機能 OIS (Optical Image Stabilizer) と Pan/Tilt 機構式振動補正機能を同時に機能させる D.I.S.S. (Dynamic Image Stabilizing System) を搭載している。D.I.S.S. によって、自然環境や設置環境によって生じるゆっくりとした大きな揺れと、速くて細かい揺れを同時に抑圧して、揺れの少ない撮影を行うことが可能になった。さらに、リモートカメラコントローラー「AW-RP120G/RP50」から HUB (スイッチングハブ) を経由した最大 100 台の同カメラの IP 制御や、最大 5 台のリモートカメラコントローラー「AW-RP120G/RP50」から同カメラ 1 台の IP 制御も可能。PoE++ 規格対応のネットワーク機器に接続することができる業界初の回転台一体型リモートカメラなので、LAN ケーブル経由での電源供給も行える。

同機は NAB SHOW 2017 に出展され、会場では D.I.S.S. のデモが行われた。

◆パナソニック：非圧縮 4K 出力対応の業務用 360 度ライブカメラを発売

パナソニック(株)は 360 度映像を非圧縮 4K/30p で出力可能な 360 度ライブカメラ (カメラヘッド「AW-360C10」/ベースユニット「AW-360B10」) を 2017 年 8 月より発売する。同製品は本製

品は、4 系統のカメラ映像をステッチング (接合) し、2:1 正距円筒図法形式の 360 度映像を生成する。

外部に PC を接続することなく 4 系統のカメラ映像の露出・ホワイトバランスを撮影環境に合わせて自動制御し、常に自然な映像を生成する。さらに、ステッチング時に接合部の被写体を自動で検出し、ステッチング位置を常時変更する高精度な「リアルタイム動的ステッチング機能」が搭載されており、継ぎ目がない映像を生成することができる。



低遅延で 360 度の 4K/30p ライブ映像を生成することができ、リアルタイムな映像配信が可能。また、離れた場所のパソコンや iPad などのタブレット端末から LAN 経由によるモニタリング、カメラ制御が行えるため、即時性のある 4K 制作ワークフローを実現できる。設置や撤収が簡単でありながら、ケーブルの誤抜防止機能なども搭載し、失敗の許されないライブ放送において映像制作者の要求に応えられる高い信頼性を確保している。

同製品は NAB SHOW 2017 に出展された。

◆パナソニック：フル HD/10bit 液晶パネル搭載、AC/DC 電源対応 運用性の高い 16.5 型フル HD LCD ビデオモニターを開発

パナソニック(株)は高画質のフル HD/10bit 液晶パネルを搭載し、AC/DC 電源と 19 インチラックマウントに対応した、放送業務用 16.5 型 LCD ビデオモニター「BT-LH1770」を開発した。発売は 2017 年夏を予定している。



LCD パネルには、広視野角・高輝度・高コントラスト比・動画応答・色再現性に優れた IPS 方式を採用。フル HD (1920×1080) 解像度を備え、入力映像をリサイズなしで表示できる。また 10bit 処理により忠実な階調表現を実現している。

入力端子は 3G-SDI 入力 (×2)、HDMI 入力、アナログコンポジット入力を備え、幅広いソースに対応。エンベデッドオーディオ対応、WFM/VS 表示など放送業務をサポートする充実した機能を装備。複数モニターの色合わせが容易なユーザーファイル、USB マウスを用いたメニュー設定など運用性・操作性に優れている。

AC/DC/ バッテリー駆動対応、19 インチラックマウント (7U) 対応により、屋外ロケや中継など機動性を求められる撮影現場で、高い運用性を発揮するほか、幅広い制作・放送業務に対応する。固定式/チルト対応のスタンド (オプション) とラックマウント金具 (オプション) も同時に提供される。

同機は NAB SHOW 2017 で出展された。

【問い合わせ先】

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社
メディアエンターテインメント事業部 プロダクトソリューションセンター
マーケティング部 カスタマーマーケティング課
TEL:06-6905-4640

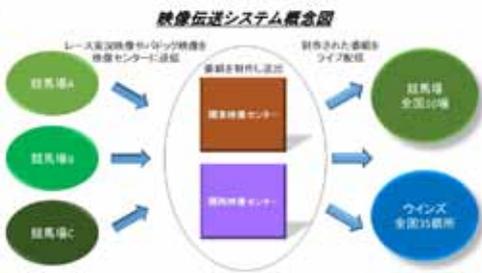
◆池上通信機：日本中央競馬会の映像伝送システムを一括受注

池上通信機(株)

は日本中央競馬会(JRA)から、映像伝送システムの更新設備を一括受注した。2018年3月から8月にか

け、関東・関西の映像センターおよび、全国の競馬場・ウインズ(場外発売所)へ随時納入を実施し、2018年8月末より新映像伝送システムでの運用が開始される。

今回受注された映像伝送システムは、2008年に同社が納入したJRAの関東、関西の2個所の映像センターと、全国の競馬場、ウインズをネットワークで接続した大規模なシステムの更新である。現行のシステムは両映像センターで、各競馬場から送信されたレースの実況映像、パドックの映像に、オッズや馬体重、払戻金など各種静止画



情報を付加して制作したレース番組を全国の競馬場とウインズにライブ配信し、競馬ファンに多彩な情報サービスを提供している。さらに、関東、関西の両映像センターで相互にバックアップすることで、どちらか一方の映像センターだけでも必要な全ての番組を制作できる信頼性も兼ね備えたシステムを実現している。

同社は映像伝送システムの更新にあたり、全体のシステム設計から機材製作まで一括受注した。関東・関西両映像センターでの番組制作の核となるスイッチャシステムに、当社最新の「MuPS-4000」をトータルで6式採用している。その他にも、送出サーバ、ノンリニア編集機などの機器を、これまで培った豊富な経験をもとに取りまとめ、更なる操作性の改善、省スペース、省電力化と併せ、長時間にわたる番組制作とライブ配信に最適なシステムを構築する。

同社はJRAが1984年に映像伝送システムを構築して以来、同システムの更新対応をしている。

【問い合わせ先】

池上通信機株式会社 営業本部 放送第2営業部
Tel : 03-5748-2261
Fax : 03-5748-2200

Inter BEE 2017 出展募集中

一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA:会長 東原敏昭/株式会社日立製作所 代表執行役 執行役社長兼CEO)は、2017年11月15日(水)から17日(金)までの3日間、幕張メッセ(千葉市美浜区)にて、音と映像と通信のプロフェッショナル展「Inter BEE 2017(インタービー2017)」を開催します。一次申込締切は5月31日(水)、二次申込締切は6月30日(金)となります。

■ 開催スローガン「WHAT WILL YOU DO NEXT? -新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」

Inter BEEは、1964年の東京オリンピックの翌年から開催され、今年、53回目を迎えます。この半世紀にわたり、放送メディアは白黒からカラーへ、アナログからデジタルへ、SDTVからHDTVへと成長発展を重ね、昨年はずいぶん4K・8K放送への新たなスタートを切りました。

放送メディアの発展と共に歩んできたInter BEEは、世界から日本に注目が集まる2020年に向け、「新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」という思いをスローガンに掲げて開催します。

■ メディア総合イベントを目指す3カ年

Inter BEEは、2017年から2019年までの3カ年をひとつのスパンとして捉え、デジタル・トランスフォーメーション時代におけるメディア産業の新たなユーザーエクスペリエンスを提示する場として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、今後3カ年でコンテンツを「つくる(制作)」「おくる(伝送)」「うける(体験)」の技術要素を網羅した「メディア総合イベント」に変容すること

を目指し、2017年はそのファーストステップとして開催します。

■ 昨年は過去最多の出展者数と来場者数を記録。2017年は更なる増加を目指す。

昨年のInter BEE 2016は、過去最多の1,090社が出展し、開催3日間で過去最多となる38,047名が来場しました。

Inter BEE 2017は、出展者および来場者共に更なる増加を目指し、「プロオーディオ部門」、「映像表現/プロライティング部門」、「映像制作/放送関連機材部門」、「ICT/クロスメディア部門」の4展示部門に加え、新たな映像表現を訴求する「INTER BEE IGNITION」、音響体験デモコーナー「INTER BEE EXPERIENCE」、コンテンツ制作最前線を披露する「INTER BEE CREATIVE」、放送通信連携の最新動向を紹介する「INTER BEE CONNECTED」等、好評の特別企画や多彩なコンファレンスを併催することにより、今回もご出展いただく皆様と、ご来場いただくプロユーズの皆様にとりまして、効果的で有意義な情報交流やビジネス創出の場を提供してまいります。

より多くの企業・団体が、Inter BEE 2017に積極的に出展されますよう広く募集いたします。

最新情報および詳細は、公式Website www.inter-bee.com をご参照願います。

【問い合わせ先】

一般社団法人 電子情報技術産業協会
TEL:03-6212-5231 FAX:03-6212-5225
E-mail:contact2017@inter-bee.com

月刊 FDI 電子版 発刊 及び WEB サイトリニューアルについて

月刊FDIでは、これまでの映像・音響の業界誌にはなかった「印刷媒体とWEB」という2つの情報提供メディアにて、発刊当初より業界の読者のみなさまのニーズにお応えして参りました。

そして、より一層のスピーディーな情報提供と利便性を追求し、また双方向の情報提供の場としてより一層広範囲に情報を提供していくために、3月より「月刊FDI 電子版」を発行し、配信することとなりました。

この「月刊FDI 電子版」の内容につきましては、基本的には月刊FDI 本誌の内容を、本文・広告とも全てを網羅して掲載した上で、本誌発行後の新着情報や未掲載情報などにつきましてはWEB サイトにて公開し、電子版お届け時にもその掲載内容をお伝えして参ります。また、本誌においてはモノクロ印刷となっていたページも、すべてカラー掲載とすることが可能となりました。

そのため従来からのFDIのWEB サイトの内容を一新し、従来からの情報収集のノウハウを活かして、印刷媒体とホームページの内容ともども、より一層充実した内容をお届けし、マルチメディア時代の多様なニーズにお応えするために、「月刊FDI 電子版」として、電子書籍として一般的で汎用性の高いEPUB 形式及びPDF 形式にて発行し、「印刷媒体・電子版・ホームページ」の3つのメディアによる情報提供を行なって参ります。

それに伴いまして、このたび月刊FDIでは、WEB サイトよりお申し込み頂ける電子版の無料購読お申し込みを受付開始しておりますので、是非ともこの機会にご登録頂き、本誌ともどもご活用下さい。

詳しい内容につきましては、WEB サイトをご覧頂き、ご購読のお申し込みはWEB サイトより可能となっております。

WEB サイト 新メニュー画面